

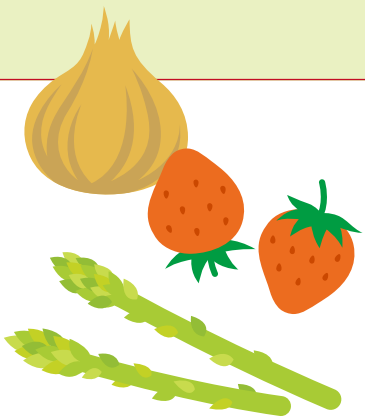
新古今 歳時記

平成 28年4月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事などが、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
最近ソメイヨシノの満開時期が早くなり、徳島中央公園や眉山の花見シーズンは、ちらほら散りだす頃。新入生や新ビジネスマンの歓迎会など賑やかな時期のスタートです。



写真：剣山山開き（見ノ越・劔神社）

13 水	12 火	11 月	10 日	9 土	8 金	7 木	6 水	5 火	4 月	3 日	2 土	1 金	月		
五黄先負 きのと うし 旧 3.7	四緑友引 きのえ ね 旧 3.6	三碧先勝 みずのと い 旧 3.5	二黒赤口 みずのえ いぬ 旧 3.4	一白大安 かのと とり 旧 3.3	九紫仏滅 かのえ さる 旧 3.2	八白先負 つちのと ひつじ 旧 3.1	七赤赤口 つちのえ うま 旧 2.29	六白大安 ひのと み 旧 2.28	五黄仏滅 ひのえ たつ 旧 2.27	四緑先負 きのと う 旧 2.26	三碧友引 きのえ とら 旧 2.25	二黒先勝 みずのと うし 旧 2.24	新暦・旧暦		
										清明	三りんぼう	新学年 下弦	雑節・祝日		
										春の全国交通安全運動・三りんぼう 世界保健デー 新月					
										3日 わじき縁日七福神めぐり (那賀町・鷺敷地区)	3日 岩脇公園桜まつり ライトアップ期間有り (岩脇公園、桜つつみ公園)	3日 日和佐さくらまつり ライトアップ期間有り (薬王寺、日和佐城)	3/25 4/10日 勝浦さくら祭り ライトアップ有り (勝浦町生名P星谷運動公園)	2/27 4/30日 春の渦まつり (鳴門市鳴門公園)	祭・イベント
アマガエル鳴く こしかんかえる 鴻雁北										ヤエザクラ咲く	玄鳥至 ツバメ渡来 つばめきたる	花冷えの季節	寒のもどり特異日 桜前線日本列島北上 雷乃発声 かみなりすなわちこえをはつす	季節の風物詩	

※記載されている事項は、予告なしに変更、または中止されることがありますので、あらかじめご了承下さい。

昔

64年前の連載より

天保年間に諸国の桜名所と題した一枚ずりの番付けが発行されたが、それに阿州徳島持明院の桜が載っている。持明院とはどこか今の人にはほとんど記憶なからうが現在、天理教の建物になっているところが、昔の寺の跡であった。この持明院は家政の時代に勝瑞から移転して来た由緒ある寺で、山の中腹に景観を占めていた三重の塔から祇園の杜、羅漢堂、薬師堂、聖徳太子堂をひっきりめて持明院の境内だった。百一、三十年も前から全国的に名高くなっていたのは、最近まで祇園の杜前にあった一株の桜で、なる程古木には違いなかったが昔のものはいまほとんど残っていない。現在のように広い地域にたくさんの桜を彩るようになったのは、明治も中期からで明治四十四年に四国唯一の桜の名所にしようと計画して四年目の大正三年、やっと有志の賛助を得て眉山公園保勝会の設立を見、それから徐々に四国八十八か所や西国三十三番の参道に桜樹を配置し山腹一帯の長い道路が完成したのである。
さて眉山の桜と相まってヒナの節句は今年八日に当たる。家

庭でヒナ段を飾る例はごくも変わりはないが、美しい振り袖に帯を堅吉彌に結んだ稚児マゲの娘さんがママごとをして遊んだ昔は、天井までも届いた御殿の棟が百目ろうそくの灯りで金彩色がゆらぐのを、特に格子をはずして往来する人の目を集中させた。当時の遺習としていまだに残っているのが流しヒナである。元来、節句に祭るヒナ人形の起りは、形代といって身についたけがれを流すという。すなわち身代わりの意味と、また阿波では祭った人のヤク難を人形にたくして川へ流してしまふという俗信から、粗末な紙ヒナを作ったわけで、現在でも店屋に売っているが、昔はこれが文で私が子ども時代は川へはよう流さず、おもちゃにして遊んだものだ。この流しヒナの風習は鳥取地方にも和歌山県にも、行われているらしい。

ヒナの節句はもともと女の子の祭事だが、男の子も紙の力フトを頭にかぶり、手にはウナギノボリといつて細長い紙に名高い武将の紋所を幾つも描き、長い竹サオにとりつけたのを高々と押し立てて、眉山の頂上茂助が原へへばつて終日戦さ遊びをする。今も名西郡ではひろびろとしたカワ

1 日	30 土	29 金	28 木	27 水	26 火	25 月	24 日	23 土	22 金	21 木	20 水	19 火	18 月	17 日	16 土	15 金	14 木
五黄先負 みずのと ひつじ 旧 3.25	四緑友引 みずのえ うま 旧 3.24	三碧先勝 かのと み 旧 3.23	二黒赤口 かのえ たつ 旧 3.22	一白大安 つちのと う 旧 3.21	九紫仏滅 つちのえ とら 旧 3.20	八白先負 ひのと うし 旧 3.19	七赤友引 ひのえ ね 旧 3.18	六白先勝 きのと い 旧 3.17	五黄赤口 きのえ いぬ 旧 3.16	四緑大安 みずのと とり 旧 3.15	三碧仏滅 みずのえ さる 旧 3.14	二黒先負 かのと ひつじ 旧 3.13	一白友引 かのえ うま 旧 3.12	九紫先勝 つちのと み 旧 3.11	八白赤口 つちのえ たつ 旧 3.10	七赤大安 ひのと う 旧 3.9	六白仏滅 ひのえ とら 旧 3.8
三りんぼう 下弦			昭和の日			穀雨 郵政記念日			満月			土用			上弦		
30・5/1日 牟岐アワビまつり (牟岐町・古牟岐港公園)			29日 剣山山開き (見ノ越・劔神社)			27日 新四国八十八ヶ所水崎廻り (那賀町水崎)			24日 とくしまマラソン (徳島市)			16・17日 はな・はる・フェスタ (徳島市 藍場浜公園他)					
ぼたんはなさく 牡丹華			霜止出苗 しもやみてなえいする			寒のもどり特異日			あしはじめてしょうす 蒔始生			こと座流星群極大日			タケノコ出回る		



ラを中にはさんで、大勢の子どもが対岸からせめ合い、ケンカ遊びをする習わしを、一三年前に偶然見たことがある。



カットは林鼓浪

四月の催しは花の見ごろに持ち込んで、釈迦の降誕会などが例年執行されるが、寺院では子どもを集めて慶讃文から献花献供、つづいて童話や音楽でこの日を記念する花祭行事が仏教会の主催で年々盛大になりつつあるのと、月末には弘法大師の正御影供が、これまた真言宗の寺院で厳修する。もうそのころになると、残る桜もすっかり散り、五形花や菜の花にまぶしい光を投げかける。そしてそぞろに晩春の情緒を二層印象づけるのは阿波特有の巡礼姿である。正御影供の日を中心に、阿波は板東町の一番から廿三番の

日和佐まで各霊場がにぎわい、その中に交じって十里十か所とか五か所を二日で参拝する若い娘さんの団体が、そろいの紐ガスリで詠歌の鈴をならしながら巡拝する道中姿は、郷土風俗として趣き深いものであったが近年姿を消してしまい、またお遍路さんにしても白衣も着けないしキユウもない。いまは水筒を肩に洋服姿巡礼が多く、四国霊場の景観もこのころではすっかり変わってしまった。

昭和26年4月 徳島新聞連載
阿波歳時記 4月の巻より抜粋
著者・絵師郷土芸能研究家
林鼓浪(1887~1965)

今 桜散る月

昨年の5月の巻きより、絵師・郷土芸能研究家の林鼓浪の連載とともに徳島の歳時記を見直してきたこの「新古今歳時記」も、いよいよこの4月の巻きで終わりとなります。皆様、どうも最後までありがとうございました。



取材デザイン編集
上野昇 (のちゃん)
四国大学
生活科学科 講師